

“Estimation of dioxin risk to Japanese from the past to the future”

Kikuo Yoshida, Junko Nakanishi

Chemosphere, Vol.53, No.4, pp.427-436(2003)

「ダイオキシン類のヒト健康リスクの経年変化の推定」

吉田喜久雄、中西準子

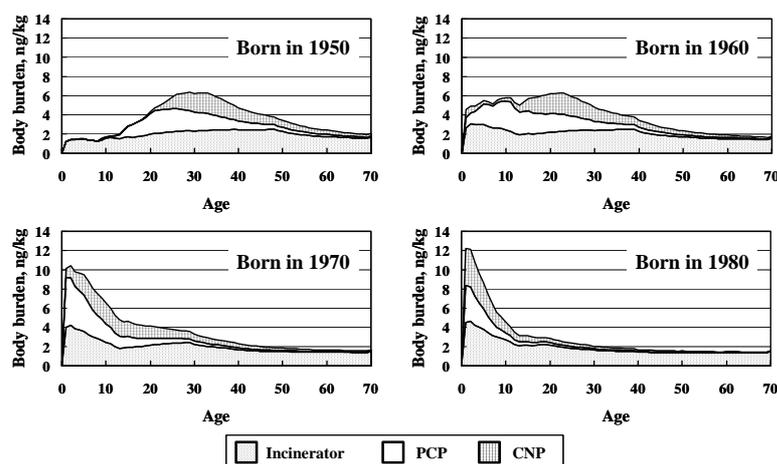


Fig. 7 Estimated time courses of toxic equivalent body burdens in Japanese females and contribution ratios of sources.

概要：2,3,7,8 位に塩素置換したポリ塩化ジベンゾ-p-ジオキシンとポリ塩化ジベンゾフラン（PCDD/Fs）17 異性体の発生源から人体までの輸送過程をモデル化し、それらの日本人へのリスクの過去から将来に亘る変遷を推定した。

測定値との比較から、2,3,7,8-4 塩化ジベンゾフランを除き、モデルで推定された環境媒体中濃度、一日摂取量及び体内負荷はわが国におけるバックグラウ

ンドレベルを妥当に表していると考えられた。

母体の体内負荷量から推定される PCDD/Fs への胎内曝露に伴う次世代の女子への生殖毒性の曝露マージンは 1950 年及び 60 年生まれの母親から生まれた女子で 4~6 であり、それほど余裕がないと思われた。しかし、1980 年生まれの母親から生まれる女子で 12~14 であり、将来的にはこのエンドポイントに対するリスクは問題にならないと思われる。

著者：吉田喜久雄（薬学博士、リスク評価・暴露評価）

産業技術総合研究所 化学物質リスク管理研究センター 主任研究員

横浜国立大学 環境情報研究院 客員教授）

ホームページアドレス：http://unit.aist.go.jp/crm/K_Yoshida.htm



略歴：

1976 年 4 月 三菱化成工業株式会社（現：三菱化学株式会社）入社

1996 年 4 月 横浜国立大学環境科学研究センター客員教授

2000 年 4 月 資源環境技術総合研究所 安全工学部 部付主任研究官

2001 年 4 月 産業技術総合研究所 化学物質リスク管理研究センター 主任研究員

2001 年 4 月 横浜国立大学大学院環境情報学府客員教授

書籍：「リスクアセスメントハンドブック」丸善